第一部

講演4

耳閉感、難聴、肩こりに 桂枝加苓朮附湯が有効であった症例



新谷朋子先生

とも耳鼻科クリニック

1987年 札幌医科大学医学部 卒業 1992年 札幌医科大学医学部 助手 2001年 札幌医科大学医学部 講師

2010年 とも耳鼻科クリニックを開業、札幌医科大学 非常勤講師

はじめに

急性低音障害型感音難聴は、急性あるいは突発性に蝸牛症状(耳閉塞感、耳鳴、難聴など)を発症する低音域に限定された感音難聴を呈する疾患で、近年患者数は増加傾向である。

治療には内耳血流の改善薬やビタミンB12などが使用されるが、症状の反復や難聴が高度な場合、耳閉感やめまいなどの症状が残る場合は治療に難渋することがある。

症例

症 例:77歳 女性。

主 訴:難聴、両耳閉感。

現病歴: X年9月15日から両耳閉塞、左軽度の難聴、めまい(浮動感)があり、10月6日に当院を受診した。聴力検査では左軽度の低音部感音難聴(40dB)で、眼振は認めなかった。

初診時に低音障害型感音難聴(低音部聴力:40dB)の診断で、メコバラミン、アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物を処方した。再診時(10月12日)には、低音部聴力は30dBと難聴は改善したが耳閉感が残存していた。また、以前から自覚していた肩こりが悪化していた(**図1**)。

東洋医学的所見/治療:図1に示す。肩こりを伴う低音障 害型感音難聴として、桂枝加苓朮附湯を処方した。

臨床経過(図2): 桂枝加苓朮附湯の服用によって左耳閉感、肩こりは消失し、低音部の聴力は25dBと改善した。

4週間後に自己判断で服用を中止したところ耳閉感、肩こりが再燃したため12月3日に来院し、低音部の聴力は45dBと悪化していた。桂枝加苓朮附湯の服用再開を希望された。

12月24日の来院時に、低音部聴力は20dBと改善し、 耳閉感、肩こりはみられず、桂枝加苓朮附湯の服用を継続 している。

考察

桂枝加苓朮附湯

桂枝加苓朮附湯は、桂枝湯に朮、茯苓、附子を加えた処

図1 症例1 77歳 女性

現病歴

X年9月15日から両耳閉塞、左軽度の難聴、めまい(浮動感)があり、10月6日に当院を受診した。

聴力検査

鼓膜は正常、左軽度の低音部感音難聴 (40dB)、 眼振はない。

診断と治療

- 初診時: 低音部40dB、低音障害型感音難聴の診断でメコバラミン、アデノシン三リン酸ニナトリウム水和物を処方。
- 再診時:10月12日、低音部聴力30dBと難聴は改善したが、まだ耳閉感がある。以前からある肩こりが最近悪化している。

東洋医学的所見

身長:153cm、体重:59kg、BMI:25.2

排便:0~1回/日、排尿:6~7回/日、夜間尿:1回/日。

脚のむくみあり、冷えはなし。

舌診:胖大舌、瘀血点(+)、舌下静脈怒張(+)、黄色舌、乾燥

脈診:中間浮

腹診: 腹力 3/5、臍周囲の盛り上がり(+)

治療

肩こりを伴う低音障害型感音難聴 → 桂枝加苓朮附湯

第28回 東洋医学シンポジウム

漢方エキス製剤の上手な使い方

-困ったときの この一手-

方で、身体を温め、痛みを発散させる作用があり、関節痛 や神経痛、冷えによる痛み、手足のしびれやこわばりに適 応されている。冷え症で、体力のあまりない人に向く処方 と考えている。細野史郎は『漢方医学十講』にて「真武湯と 苓桂朮甘湯の方意を有し、極めて多彩な応用範囲をもつ優 秀なる薬方|と述べている(図3)。

低音障害型感音難聴

低音障害型感音難聴は、急性あるいは突発性に耳症状 (耳閉塞感、耳鳴、難聴)が発症する。低音部(0.125、 0.25、0.5Hz) の聴力レベルの合計が70dB以上で、めま いを伴わない(または軽いめまい)。女性に多く、約1割が 両側性である。病態はメニエール病と同様に内リンパ水腫

の関与が指摘され、治療はステロイド、イソソルビド、循

環改善薬などが用いられる。予後は一般に良好だが、再発 や悪化する例、メニエール病に移行する例もある。

肩こり関連めまい

竹越らは10、メニエール病などの診断がつかない「めま い症」には、肩こり、首こり、頭痛を主とする頸部の異常を 伴う患者(肩こり関連めまい)が多く、めまい症例の約4割 であると述べている。さらに桂枝加苓朮附湯の奏効例の6割 に両側低音部の低下が認められ、蝸牛症状を伴う例は 37%と報告している。また、「めまい症」で肩こりがある 症例は桂枝加苓朮附湯の新たな適応病態の一つであり、特 に女性で低血圧傾向・軽度聴覚症状を伴う症例の有効率は 87.0%と報告している。

臨床経過 図2

- 桂枝加苓朮附湯エキス細粒 (7.5g/日) を服用。 左耳閉感、肩こりが消失、 低音部の聴力が25dBと改善したため、服用を中止した。
- 耳閉感、肩こりが再燃したため12月3日来院、低音部45dBと悪化。 <u>桂枝</u> 加苓朮附湯のみ再開希望。
- 12月24日、低音部聴力20dBと難聴は改善、耳閉感、肩こりはみられない。

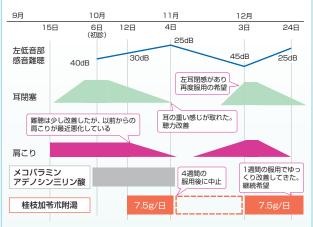


図3 桂枝加苓朮附湯

桂皮、芍薬、大棗、朮、茯苓、甘草、生姜、附子

出典

- 方機 吉益東洞「湿家にして眼目明らかならざる者、或いは耳聾し或いは 肉じゅん筋惕する者は桂枝加苓朮附湯之を主る。」 "湿家" は一般的には 「平素から水滞の症候を有する者」
- 尾台榕堂『類聚方広義』 若し心悸目眩し、身じゅん動する者は(桂枝加朮 附湯に)茯苓を加えて、桂枝加苓朮附湯と名づく 過去にめまい・難聴に投与されていたと推察される。
- 細野史郎『漢方医学十講』 真武湯 (茯苓、芍薬、朮、生姜、附子)、苓桂朮甘 湯(茯苓、桂皮、白朮、甘草)の方意を有し、極めて多彩な応用範囲をもつ優 秀なる薬方。

桂枝湯に朮、茯苓、附子を加えたもの、体をあたため、痛みを発散させる作用。 関節痛や神経痛、冷えによる痛み、手足のしびれやこわばりに適応。 冷え症で、体力のあまりない人に向く処方。

【参考文献】

1) 竹越哲男 ほか: 肩こり関連めまいに対する桂枝加苓朮附湯の有効性の臨床的検討、漢方と最 新治療 26: 155-161 2017

Discussion

木村: 桂枝加苓朮附湯は真武湯と苓桂朮甘湯の方意があるとのことでしたが、実臨床においてどのような患者さんに桂 枝加苓朮附湯が奏効する印象をお持ちですか。

新谷: 若年から中年の女性で、低血圧傾向かつ筋肉量が少ない方、脾虚が強く補中益気湯などが適するような方、葛根湯 などが肩こりに無効な方などが有効と考えています。

木村: 苓桂朮甘湯と半夏白朮天麻湯との鑑別について教えてください。

<mark>新谷</mark>: 立ちくらみがひどく動悸がある方は苓桂朮甘湯、高齢者で胃腸が虚弱な方や冷えを伴う方には半夏白朮天麻湯な どを処方しています。